

特集

本連盟が国際貢献事業を後援

—モルディブの高校生が日本合宿—



昨年2016年11月21日より12月29日までの約1ヶ月間にわたって、モルディブ共和国より2名の高校生が埼玉県立越谷南高校を中心にホームステイをしながらバドミントン合宿に参加した。これは2015年に引き続き（昨年は千葉県西部台高校）挙行されたもので、本年は（公財）日本バドミントン協会が国際貢献の一貫として受け入れを許諾し実現できたものである。日本教職員バドミントン連盟も、高橋理事長が日本協会の国際部長であることから援助後援をした。写真はウエルカムパーティーでのスナップで、引率者のモルディブバドミントン協会のムーサ会長（アジアバドミントン連盟普及開発委員長）とナビ、ナバの双子の高校生プレーヤーである。彼女達はこの日本合宿を通して強化に励み、2020東京オリンピック参加を目指しているとのことである。

〔理事長：高橋 英夫〕

特別寄稿

モルディブバドミントン協会女子ジュニア選手育成支援事業を終えて

文・写真 （公財）日本バドミントン協会国際部員 白井 巧

日本教職員バドミントン連盟では、2016年11月21日～12月19日にかけて「モルディブバドミントン協会女子ジュニア選手育成支援事業」、主催：（公財）日本バドミントン協会、主管：日本教職員バドミントン連盟を実施しました。これはバドミントンを通じて2020年オリンピック・パラリンピック開催を支援することが目的でした。同様に、スポーツの価値とオリンピック精神の普及への国際貢献事業として、現在日本が官民連携で取り組んでいるSPORT FOR TOMORROW事業としても実施しました。

モルディブから訪日した選手2名は、Abdul Razzaq Aminath Nabeeha (ナビ、17) さんと Abdul Razzaq Fathimath Nabaaha (ナバ、17) さん。ナビ選手とナバ選手は (以下敬称略)、双子の姉妹で高校2年生です。2人揃ってモルディブのU17の代表選手です。コーチとして訪日したのは、Moosa Nashid (ムーサ、47) 氏。ムーサ氏はモルディブバドミントン協会会長です。

ナビ・ナバは、埼玉県立越谷南高等学校バドミントン部等、首都圏全6カ所で約一ヶ月間バドミントン強化を実施しました。ナビ・ナバは、滞在前半の2週間を越谷南高校にて短期留学生として受け入れていただき、ホームステイも経験しました。ナビ・ナバが訪日した11月下旬は、真冬のような気温が続き首都圏でも本格的な積雪がありました。ナビ・ナバにとって雪は初めての体験でウキウキした。しかし、体育館の温度がモルディブの日中と比較すると30℃近く低かったため、身体が慣れるまで少し日数がかかりました。

ナビ・ナバは、通学で電車や自転車を体験しました。日本では日常の通学風景ですが、モルディブには電車がありません。自転車に乗る習慣もほとんどありません。ナビ・ナバは、「通学がとても面白い経験だった」と語っていました。ナビ・ナバが日本の学校生活体験でユニークだと感じた事は、体育や書道クラスでした。モルディブの学校カリキュラムでは、体育は中学校1年生で終わってしまいます。文字を毛筆で表現するのも初めてでした。

ナビ・ナバのホストファミリーとの思い出は、とても親切にいただいたことでした。お父さんが、いつも手品を見せてナビ・ナバを笑わせてくれました。モルディブの家庭では習慣のない、食後に自分の配膳を下げることも学びました。ナビ・ナバのホームステイプログラムには、モルディブバドミントン協会から事前にリクエストがありました。その目的は、単にバドミントンの技術習得を目的とした訪日ではなく、日本人・日本文化交流も含めモルディブ人の国際化を図りたいとのことでした。

今世界のスポーツの潮流は、競技力の向上と普及活動 (タレント発掘) は必須のテーマです。日本は2020年オリンピック・パラリンピックの開催国です。開催国として世界を支えていく事は、とても重要な課題です。私たちは、このような活動を通じてバドミントンの世界的な普及と競技力向上に貢献できれば嬉しく思います。

今後とも皆様からの応援をよろしくお願ひいたします。

